

華燭の典の 演出家たち

結婚式は二人の晴れ舞台。それを裏方として支える、さまざまなプロがいる。大切な一日を演出するために奮闘する、フラワーデザイナー、ウエディング衣裳専門スタイリスト、ウエディングプランナーの仕事ぶりなどを紹介する。

フラワーデザイナー

サカザキ
リヨウ
(31)

ウエディングブーケやアイテムを手掛ける「グリーンネックレス」代表のサカザキさん



結婚式のブーケは花嫁さんの化身。百人いたら百通りのブーケができるから、すべてが特別なオートクチュールと同じ。

この世に一つだけのブーケを その人のためだけに作る喜び

サカザキさんは、花屋に勤めた経験はない。以前より尊敬するブライダルブーケの師匠に師事し、フラワーアレンジやブーケ作りの技術を習得。二〇〇一年にフリーのフラワーデザイナーとして独立した。同時にフラワーアレンジ教室も開講し、翌々年にはアトリエもオープンさせた。現在は主にブライダルブーケ作りを中心に、挙式の会場装飾やウエルカムボード制作など、ブライダル業界で活躍中だ。

「昔から物を作ることが好きでした。そこにたまたまお花があった、という感じ。結婚式って誰にとっても基本的には一生に一度の特別なものでしょう？ だからこそブーケひとつ取っても思い入れが深くなる。そこにひかれたんだと思います」

そんなサカザキさんは、ブーケに対し独自の考え方を持っている。

「結婚式の主役はあくまでも花嫁さん。だからブーケは本来引き立て役なのですが、ブーケ自体が花嫁さんの化身というくらい、大切に象徴的なものだと思うんです。一人ずつ性格も違えば身長や雰囲気ひとつ取っても違う。だとすれば、その人に本当に似合うものというのは、百人いたら百通りあると思うんですよ」

だからこそ、自身のホームページで紹介しているブーケは、あくまでも好みを調査するための見本。お客さんがそこにあるものを指定したり、雑誌から希望の型を持ってきたりしても、それと全く同じものではなく、よりその人らしく仕上げるのが「サカザキ流」だ。

「もちろん、ドレスの色や写真などを見ながらお客さまの要望を初めに伺います。ただ、お客さまの要望通りの商品が一〇〇%の満足だとしたら、喜んでいただくためには、その上を行く一一〇%のものを作

る必要があるんです。ブーケもオートクチュールと同じで、その人だけに似合うものを見つけて提案するのが私たちプロの仕事。誰も見たことのない「その人らしいブーケ」を作りたいんです」と力を込める。

プロとしての技術は、

“Small is beautiful”の精神で

ブーケの相談は、よほど遠方でない限りは直接会って聞く。綿密な相談に加えて、その人の声や雰囲気、服の趣味、身長など、話の内容からだけではうかがえない部分も観察し、そこから似合う形や幅、長さや好みを導き出して、その人らしさを細部に至るまで花で表現するためだ。

「おおらかでしっかりした印象の人でも、会って話してみると繊細な部分があれば、少し優しい雰囲気のお花を混ぜたり、ユーモアのある



「宝石のアリモト」内にあるチャペルで。
挙式のための会場装飾も行う

人であればお花をリズムミカルに並べてみたり……。もちろん体のサイズに合わせて大きさの微調節をすることも大切な要素です」

それらに加えて、色も重要な個性の表現。そのためにパーソナルカラー診断の勉強もした。

細部にこだわるとはいえ、奇抜なものを作るという意味ではない。

「私はアーティストではなく、あくまでも商業デザイナー。お客さまに満足していただくことが仕事ですし、喜びなんです。だから依頼者に伝わるのが何よりも大切なこと」

出来上がりのブーケを渡した時に、その思いが伝わり、感激のあまり泣きだす花嫁もいるほどだという。

「お客さまの心に響くような、感情を揺り動かすほどの物を作れたら、こんなにうれしいことはないです」

この時がサカザキさんにとって一番やりがいを感じる瞬間だという。

人との出会いや縁を大切に、 今後は商品開発にも力を入れたい

そもそも会社名の「グリーンネックレス」は、丸い玉が数珠つなぎになった同名の植物からとった。果実のように見える丸い玉は実は葉っぱで、一つひとつの玉には十分な水分と養分が蓄えられている。そんな植物のように、「大切なお客さまとつながり、発展していきたい」という思いが、社名に込められているのだ。

サカザキさんの将来の夢は、一人でも多くの花嫁さんのブーケ作りに携わり、幸せのお手伝いをする事、そして、ブライダル関連の商品開発。サカザキさんが商品化したグッズは、ブーケをガラスの中に封じ込めたはし置きや押し花の額縁など、「こんなのがあったらいいな」という独自の視点によって表現されている。